

ばんたねニュース

FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL



2024年6月末、 新エリアが順次オープン!

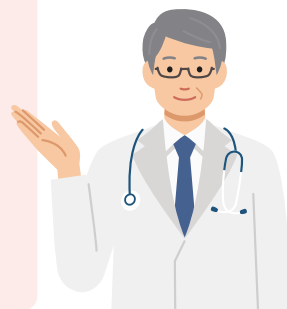
VOL. 56

2024年
6月1日発行

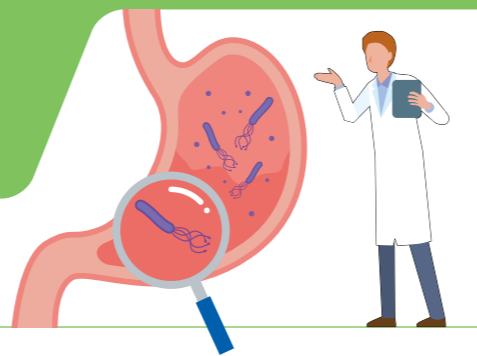


現在、既存棟1階、2階エリアの改修を行っております。

1Fには外来(耳鼻咽喉科、外科、総合アレルギー科、泌尿器科)、看護外来、採血・採尿室、化学療法室。2Fには外来(麻酔科、産婦人科)が設置される予定です。



消化器内科トピック



胃がんについてのお話

胃がんの疫学

2022年の日本人のがん死亡数において、胃がんは男性で3位、女性で5位、男女計では3位と非常に多くの方が苦しめられているがんの一つです。

胃がんの症状

初期の段階で特有なものはなく、あえて言うならば、胃の痛み、不快感、違和感、胸やけ、吐き気、食欲の低下などです。また、たとえ進行しても自覚症状はなく、体重減少や、貧血の精密検査で偶然発見される場合もあるので注意が必要です。進行した胃がんから出血すると、黒色の便や吐血をきたすことがあります。

胃がんの原因

現在ではヘリコバクター・ピロリ菌(Hp)の感染に由来することがほとんどであるといわれています。日本人はこの菌の感染者が多いため諸外国に比べて胃がんの発生率が高いと考えられています。

胃がん検診

胃がんを早期に見つけるには胃がん検診が大切です。検診の方法にはX線バリウム検査や胃カメラ検査があります。現在の対策型検診(住民検診や職域検診)では2年に1度これらいずれかの検査を受けることが推奨されています。50歳以上が対象となっていますが、X線バリウム検査は40歳以上で毎年受けてもよいとされています。任意型検診(人間ドック)では何歳からでも、また毎年胃カメラ検査を受けることも可能です。胃がん検診で図1、図2のように無症状の胃がんが発見されることがあります。また、最近では胃がんのリスク層別化分類(ABC分類)という検査が行われるようになってきました。これはHp感染の有無(Hp抗体価)と胃粘膜の萎縮の程度(ペプシノゲン(PG)法)によって検診受診者をA群からD群に分類し、胃がんになりやすい人をピックアップして積極的に胃カメラ検査を受けてもらい、胃がんの早期発見に努めようという検査法です(表1)。ただし、この検査法で注意する点は、胃がんリスクの低いA群であっても、「あなたは絶対胃がんになりません」というお墨付きが出たわけではないということです。A群であってもぜひ一度は胃カメラ検査を受けるようにしましょう。一方、B・C・D群は胃がんになりやすいと考えられていますので、1-2年毎に胃カメラ検査を受けることが推奨されています。



表1 ABC分類

	Hp抗体価(-)		Hp抗体価(+)	
	3U/ml未満	3U/ml以上 10U/ml未満	10U/ml以上	
PG(-)	A群	B群		
		除菌する場合には必ず他のHp感染検査を実施しHpの存在診断を行う		
PG(+)	D群	C群		

A群: 低リスクとされるが、一度は内視鏡検査を受けることが望ましい
B・C・D群: 高リスクとされるため、重点的に内視鏡検査を行う



小林 隆 准教授
【専門分野】
消化管疾患全般

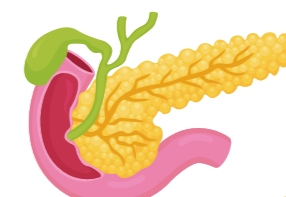
【認定資格等】

日本内科学会認定内科医・指導医・支部評議員、日本消化器病学会専門医・指導医・支部評議員、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・学術評議員・支部評議員、日本消化器がん検診学会総合認定医・指導医・代議員・支部代議員、日本がん検診・診断学会がん検診認定医・評議員、日本大腸検査学会評議員、日本潰瘍学会評議員、日本高齢消化器病学会評議員

膵臓がんに対する超音波内視鏡検査

膵臓とは

膵臓は胃の後ろにある長さ15-20cmくらいの細長い臓器です。主に2つの役割があり、消化酵素を含んだ膵液を分泌したり(外分泌機能)、血糖を調節するインスリンなど、いろいろなホルモンを分泌したりします(内分泌機能)。膵液は膵管という管によって運ばれ、十二指腸へ排出されます。



膵臓がんについて

膵臓がんの多くは膵管から発生します。膵臓がんは近年増加しており、年間4万人近くのかたが亡くなっています。全国統計では、がんによる死亡原因のなかで、肺がん、大腸がん、胃がんについて第4位となっております。

症状

症状としては、腹痛、腰部部痛、体重減少、黄疸、急激な糖尿病の発症や悪化などがあります。しかし、膵臓がんは初期のころは自覚症状がないことが多く、症状がでてから膵臓がんと診断されたときには、進行した状態で見つかることが多く、予後不良ながんです。

検査

症状や血液検査、腹部超音波検査の結果などから膵臓がんが疑われる場合には、造影CT検査、腹部MRI検査、超音波内視鏡検査(EUS)などを行います。今回、超音波内視鏡検査(EUS)について説明します。



写真1

超音波内視鏡とは

超音波内視鏡(EUS)は、先端に超音波装置が装着されている内視鏡(写真1)です。この検査は「胃カメラ」と同じく口から内視鏡を消化管(胃や十二指腸)内へ挿入します。通常の「胃カメラ」では消化管の表面を観察しますが、EUSでは消化管の中からすぐ近くにある膵臓を超音波で観察することができます。通常の腹部超音波検査では、胃や腸の中の空気や腹壁、腹腔内の脂肪、骨が妨げになり、膵臓全体を観察することが難しいのですが、EUSでは膵臓全体を観察することができ、またすぐ近くから観察が行えるため、CTやMRI検査では見つからないような10mm以下の小さな病変(写真2)を見つけることも可能です。当科では、腹部超音波検査やCT、MRIで膵管が太くなっているとか嚢胞(液体のたまった袋)がある場合には、小さな膵臓がんを見つけるよう積極的にEUSを行っています。

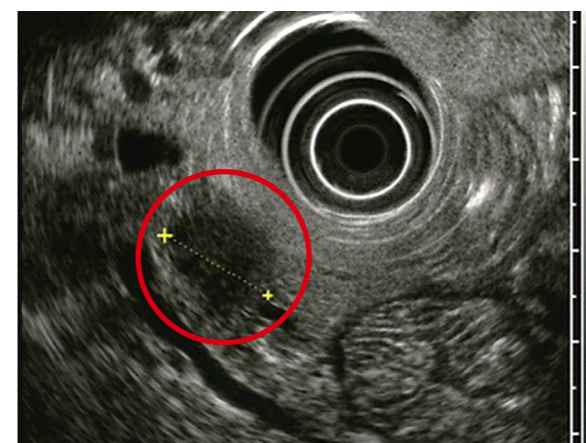


写真2 大きさ10mmの膵臓がん

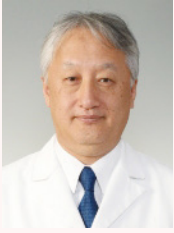


橋本 千樹 教授
【専門分野】
胆道・膵臓

【認定資格等】

日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医・学会評議員、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・学術評議員、日本超音波医学会専門医・指導医・代議員、日本胆道学会認定指導医・学会評議員、日本膵臓学会認定指導医、日本消化器がん検診学会、日本肝臓学会、日本癌治療学会 会員

新任 ドクターのご紹介



脳神経外科
中原 一郎 教授

【専門】 脳卒中、脳血管障害の
外科治療、血管内治療

【外来日】 月・金曜

私は脳神経外科全般の診療に携わって参りましたが、なかでも脳動脈瘤等の脳に出血を起こす病気や、脳梗塞の原因となる頸動脈狭窄症等の脳の血管がつまる病気の外科治療が専門です。以前は切る手術が主流でしたが、最近ではカテーテルを用いた低侵襲で脳や身体にやさしい治療が可能です。患者さんの具合に応じた最適な治療を目指しています。



脳神経外科
原口 健一 講師

【専門】 脳血管障害、脳血管内
治療

【外来日】 火曜

4月1日より赴任しました原口健一と申します。主に脳血管障害(脳卒中)の治療を主体に診療してきました。開頭手術、血管内手術それぞれで集中的に修行を積み、各治療の利点欠点を考えたうえで治療を提案させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



脳神経外科
田邊 淳 講師

【専門】 脳卒中、脳血管障害の
外科治療、血管内治療

【外来日】 水曜

はじめまして。このたび、ばんだね病院脳神経外科に配属となりました田邊淳と申します。今までに岐阜、秋田、千葉、名古屋の地で脳神経外科医として勤務し、医師15年目となりました。ばんだね病院脳神経外科チームの一員として患者さんに安心、安全な治療を提供いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

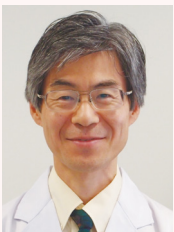


脳神経外科
長谷部 朗子 助教

【専門】 脳卒中、脳血管障害の
外科治療、血管内治療

【外来日】 第1土曜

4月より脳神経外科に赴任いたしました。医師免許取得後、静岡県内の総合病院で勤務しました後、2015年より血管障害の治療の勉強のため、藤田医科大学病院にて研鑽を積み、この度ばんだね病院にてお仕事させていただくことになりました。患者さんとのコミュニケーションを大切に、治療を行っていきたくと考えております。よろしくお願いいたします。

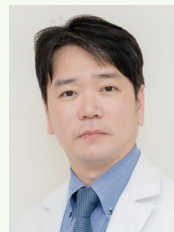


総合アレルギー科
大矢 幸弘 客員教授

【専門】 アレルギー疾患全般

【外来日】 木曜

2024年4月から総合アレルギー科の外来を担当することになりました。3月までは、国立成育医療研究センターのアレルギーセンター長として、重症のアトピー性皮膚炎を始め、難治性の喘息・食物アレルギーの診療と研究に取り組んで来ました。特にアトピー性皮膚炎の治療は面倒ですが、治すコツがあります。重症でも諦めないで一緒に頑張りましょう。



外科・小児外科
河川 浩介 教授

【専門】 乳腺外科

【外来日】 水曜

初めまして、三重大学医学部附属病院乳腺センターの教授を務めております。これまで1000例以上の乳癌手術を執刀し、多くの乳がん患者さんの治療経験を積んでまいりました。乳癌の正確な診断を行い、手術を含めた集学的治療を提供することで、患者様に寄り添った医療を心がけています。どうぞお気軽にご相談ください。皆様のお役に立てるよう尽力してまいります。

藤田医科大学ばんだね病院

FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL

〒454-8509 名古屋市 中川区 尾頭橋3丁目6番10号

TEL 052-321-8171 FAX 052-322-4734 発行 広報委員会

土曜日午前も
診療しています。

QRコードで今すぐアクセス

ばんだね

検索

